

04-4 新型コロナウイルス感染症の第1波と第6波における 同一高齢者集団への基本チェックリストの結果

小山里美（小諸市）、佐藤真弓（小諸市）、小林良清（長野市保健所）

キーワード：高齢者、新型コロナウイルス感染症、基本チェックリスト、フレイル

要旨：コロナ禍において、高齢者のフレイル（虚弱）が進んでいるのではと考え、令和2年4～5月と令和4年4～5月に同一高齢者集団に実施した基本チェックリストの結果を分析した。該当項目数別、領域別、項目別に分析を行い「お茶等でむせる」「疲れたよう感じがする」の2項目で有意に増えており、他は差がなかった。コロナ禍でも心身機能を維持されている高齢者が多い可能性が示唆された。

A. 目的

新型コロナウイルス感染症の第1波が発生し、緊急事態宣言が発出された令和2年4～5月、78歳の市内元気高齢者を対象に基本チェックリストを実施し、これらの市民を対象に第6波が到来していた令和4年4～5月にも同様のチェックリストを実施した。

同一高齢者集団に対する2年間隔の基本チェックリストの結果を分析し、新型コロナウイルス感染症による高齢者の心身機能の変化について考察する。

B. 方法

1. 基本チェックリストについて：国が作成した25項目からなる質問票であり、自身の生活や健康状態を振り返り、心身の状況について答えることで、心身機能の衰えやリスク等を把握することができる。
2. 対象者：令和2年度中に78歳になる高齢者506人中464人及び令和4年度中に80歳になる高齢者491人中447人。介護保険認定者、介護予防・生活支援サービス事業利用者等は除いた。
3. 実施時期：令和2年4～5月、令和4年4～5月
4. 実施方法：対象者に対して基本チェックリストを郵送し、郵送により回答。
5. 分析方法：該当者割合について令和2年度に対する令和4年度のオッズ比とその95%信頼区間を算出した。
6. 倫理的配慮：目的、個人情報の取り扱いを

通知文に記載し、回答を持って同意とみなした。

C. 結果

1. 回答数・回答率：令和2年度353人（76.1%）、令和4年度292人（65.3%）
2. 基本チェックリスト該当項目数の比較

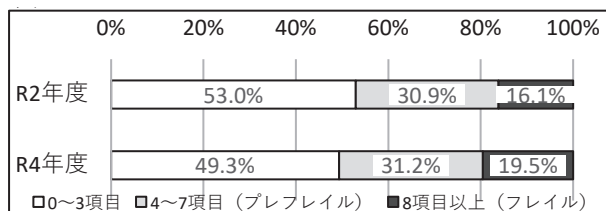


図1

表1 該当項目数のオッズ比

	R2年度に対する令和4年度のオッズ比	同95%信頼区間
プレフレイル	1.08	0.76-1.54
フレイル	1.30	0.85-1.99

令和4年度は、令和2年度に比べると、プレフレイル、フレイルの割合は増えていたが、有意差は認められなかった。

3. 基本チェックリスト領域別該当者割合の比較

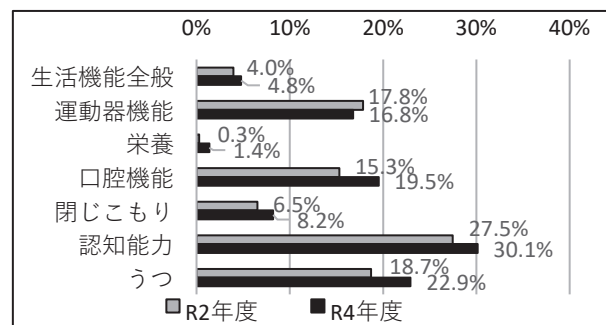


図2

表2 領域別のオッズ比

領域	R2年度に対する令和4年度のオッズ比	同95%信頼区間
生活機能全般	1.22	0.57-2.60
運動器機能	0.93	0.62-1.40
栄養	4.89	0.54-43.98
口腔機能	1.34	0.89-2.02
閉じこもり	1.28	0.71-2.33
認知能力	1.14	0.81-1.60
うつ	1.29	0.88-1.90

令和4年度は、2年度に比べると生活機能全般、栄養、口腔機能、閉じこもり、認知能力、うつの割合が増えていたが、有意差は認められなかった。

4. 基本チェックリスト項目別該当者割合の比較

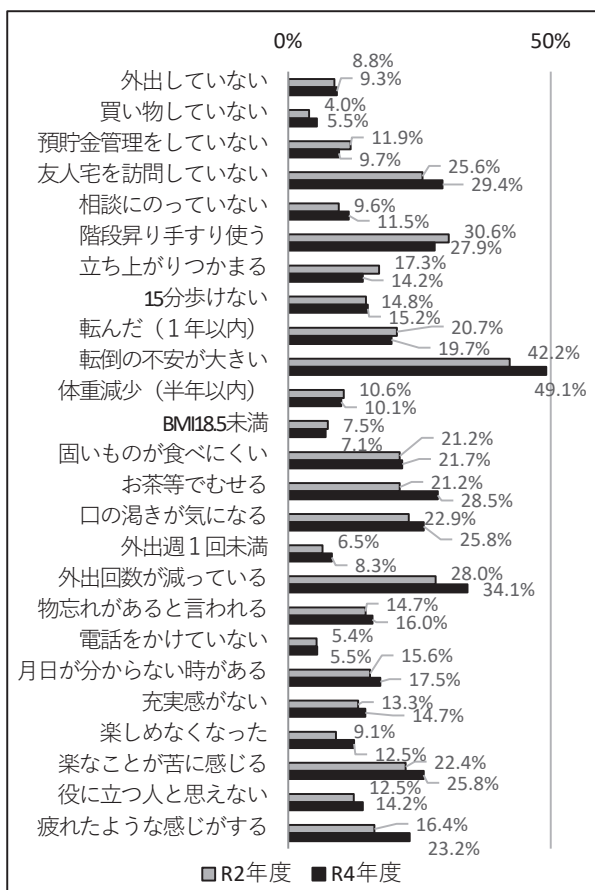


図3

表3 項目別のオッズ比

項目	令和2年度に対する令和4年度のオッズ比	同95%信頼区間
外出していない	1.06	0.62-1.82
買い物していない	1.40	0.67-2.93
預貯金管理をしていない	0.79	0.48-1.31
友人宅を訪問していない	1.21	0.86-1.72

相談にのっていない	1.22	0.74-2.03
階段昇り手すり使う	0.88	0.62-1.24
立ち上がりつかまる	0.79	0.51-1.22
15分歩けない	1.03	0.67-1.59
転んだ(1年以内)	0.94	0.64-1.38
転倒不安が大きい	1.32	0.97-1.81
体重減少(半年以内)	0.95	0.57-1.59
BMI18.5未満	0.95	0.52-1.73
固いものが食べにくい	1.03	0.70-1.50
お茶等でむせる	1.48	1.03-2.12
口の渇きが気になる	1.17	0.81-1.68
外出週1回未満	1.30	0.72-2.35
外出回数が減っている	1.33	0.95-1.86
物忘れがあるとと言われる	1.10	0.72-1.70
電話をかけている	1.03	0.52-2.04
月日が分からない時がある	1.15	0.76-1.75
充実感がない	1.12	0.72-1.76
楽しめなくなった	1.44	0.87-2.38
楽しいことが苦に感じる	1.20	0.84-1.73
役に立つ人と思えない	1.16	0.73-1.83
疲れたような感じがする	1.53	1.03-2.27

令和4年度は、2年度に比べると25項目中19項目で該当者の割合が増えていたが、有意差が認められたのは「お茶等でむせる」「疲れたような感じがする」の2項目であった。

D. 考察・まとめ

コロナ禍で高齢者のフレイル(虚弱)が進んでいるのではと考え、同一高齢者集団に対する基本チェックリストの分析を行った。有意に増えていたのは2項目のみであり、心身機能を維持されている方が多い可能性が考えられた。項目別でも転倒不安や歩行を除く運動機能や体重の項目は割合が増加しておらず、身体機能を維持されている方が多い可能性が考えられた。要因としては、聞き取りから、生活に必要な外出や散歩、家族との付き合いを続けていたことが考えられる。

結果から「オーラルフレイル」予防に取り組んでいく必要性を改めて感じた。得られた内容を高齢者や高齢者の支援機関に対するフレイル予防の啓発に活かしたい。

E. 利益相反

利益相反なし。